

# 福祉えんざ

第57号

発行 円座地区社会福祉協議会(円座コミュニティセンター内) 編集 広報啓発部



子どもたちの国際交流支援活動（後編）

**新しい景色**

高松市立円座幼稚園  
園長　臼井 隆

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う上で重要なものです。そのため、幼稚園では遊びを通して行うものです。そのために、幼稚園では遊びや生活を通して、子ども一人一人が必要な体験が得られるよう、幼児理解に基づき計画的に環境を構成し、総合的な指導を行っています。本園では、子どもたちが安心できる環境の中で自分のやりたいことに自ら関わり、自分の思いや考えを広げながら伸び伸びと表現する心地よさや満足感を味わえるよう努めています。

今、高松市内では保育所、幼稚園の一体型の子ども園が多く開設されています。半面、幼稚園は園児の減少が課題となつておらず、存続の危機を迎えている幼稚園もあります。

幼稚園だからできること、少人数だからこそできることが、つまり、幼稚園教育の質の向上を目指したいと考えております。そこで、本年度は園庭での活動を増やしたり、天気の良い日には積極的に散歩（園外活動）を実施したりするなど、心と体を十分に動かすような保育の実践を行つて参りました。また、異年齢交流を積極的に取り入れることで、五歳児が年長児として育ち、四歳児、三歳児の園での生活にも安心感が生まれています。本年度の成果と課題を検証し、令和5年度も、園、保護者、地域が手を携えて「補い合い」なら、新しい景色が見られるよう園運営を進めて参ります。どうぞよろしくお願いします。

令和4年12月1日の全国一斉改選により、円座地区では、新しく民生委員・児童委員に任命された4名と再任の委員15名に、12月1日、円座コミュニティセンターにおいて、厚生労働大臣ならびに高松市長からの委嘱状が、木村円座校区コミュニティ協議会会长より手渡されました。

また、この度の任期満了により退任された4名の皆さんには、長年にわたり地域福祉の推進にご尽力されたことへの感謝状が贈られました。

そして、退任された委員から新任の委員への引継ぎが行われ、決意も新たに今期の活動がスタートしました。新型コロナウイルス感染症のため、活動に制約が多くなった3年間で、地域の状況も大きく変化したように感じます。円座地区民生委員児童委員協議会では、誰もが安心して生活ができる地域づくりのために、今回の一斉改選にあわせ、担当区域の見直しを行いました。委員が自分の住んでいる所を中心とした区域を担当し、その世帯数を均等化すること密着した活動を充実させたいと思います。

<b>新任民生委員・児童委員</b>				
小倉明子 主任児童委員 円座校区全域	西村・新道・ 円団地・いこ いまち円座・ ユーリック ホーム団地・ 新道2班・西 村東・西村北	上所上・西山 崎ニュータウン	川向 上・西山タ ク・川崎 東・西山崎 ふれあい工 場	西 山タ ク・西山タ ク・川崎 東・西山崎 ふれあい工 場

- 大寒やはちきん老婆白寿なる  
(清水 茂昭さん)
- 小三治が嘆をひとつ左様なら  
(乃生須ミドリさん)
- うたた寝の覚めればラジオ秋の宵  
(辻 ひとみさん)
- 物価高わが家の家計火の車  
(佐藤 峰一さん)
- 恋時雨乙女の頬に條を引く  
(小串 勝之さん)
- 夾竹桃蔵にまだある竹の槍  
(河端 豊さん)
- ここは時老の鍛えた技を見る  
(河端 豊さん)
- 今回掲載できなかつた作品は次  
回に紹介します。お楽しみに。

令和5年度  
福祉協力員登録申込書

自治会名・・・
氏名・・・
性別・・・
住所・・・
電話番号・・・

この広報紙「福祉えんざ」は、赤い羽根募金の助成を受けて作成しています。

さて、今回の一斉改選では、全員の民生委員の欠員数が過去最多になつたことが報じられました。働くシニアの増加や専業主婦の減少なども、なり手不足の要因になつているようです。また、委員の高齢化も深刻な課題です。このような課題解決のために、民生委員活動を幅広くアピールし、働いても活動しやすく、負担を感じる民生委員活動から、やりがいのある民生委員活動への転換を進めてまいりたいと思います。

円座地区的皆さんに、より身近な「福祉えんざ」としてご利用いただこうと設けたこのコーナー。2回目の今回は俳句を募集しましたが、応募がありませんでした。たが、応募がありました。しかし、俳句同好会の員活動を幅広くアピールし、働いても活動しやすく、負担を感じる民生委員活動から、やりがいのある民生委員活動への転換を進めたいと思います。

円座地区社会福祉協議会では、地域の皆さんに安心して暮らして頂ける街づくりに努めています。そのため、令和5年度におきましても、地区推薦の福祉委員の方々と共に活動して頂ける福祉協力員を募集します。

## 皆さんの作品コーナー

福協力員を募集しています



福祉委員、福祉協力員の親睦と相互理解を深め、諸活動を円滑に進めるために、令和4年11月2日、一日研修を行いました。

愛媛県新居浜市の防災センターで、地震や火災の疑似体験を通して災害の恐ろしさを学び、日ごろから、防災意識を高めることの大切さや、「自助」、「共助」について考える貴重な時間となりました。午後はマイントピア別子へ行き、観光坑道で、およそ300年に渡り銅を探掘していた当時を再現した展示を見学し、日本の貿易の近代化に貢献した別子銅山の歴史を学びました。

(参加された方の感想)  
過去の災害データや予想される災害について、映像を見ながら、説明を聞き、恐怖感と共に身が引き締まる思いでした。その他、煙避け体験や、台所火災のシミュレーションもあり、慌てて対処することを教えていただきました。家に帰つてから、古い消火器から新しい消火器に換えました。

(福祉委員Y・O)



## 一日研修

コロナウイルスが少し下火になったころに、新居浜市防災センターの一日研修のお話があり、とても興味があつたので参加させていただきました。

地震災害体験があり、震度7になると立つていられず、窓ガラスの軋む音から即割れる音へ。外は景色が一変し、木々は倒れ粉塵が舞っている。何が何が?と驚くばかりでした。

最初のアクションとなる「食品ロス・ゼロ川柳」十七文字のメッセージを考えてもらいました。



## 第1回こどもSDGs 身近なことから始めよう テーマ「食品ロス」を考える

国連が提唱する持続可能な開発目標SDGsの達成への取組み、食品ロス問題は一人一人が身近なものとして捉え、今できることを前向きに実践することが重要です。社会福祉協議会が掲げる「共助の基盤づくり」とは、未来あるこどもたちのために種を蒔くことのかもしれません。

最後に今日の感想を聴いた子が「おうちに帰つてからも意識して頑張りたい」と言つていた言葉が印象的でした。

日々の食生活で食べ残し、売れ残りや期限が近いなど、様々な理由でまだ食べられる食品が捨てられてしまう「食品ロス」について、夏休み中のこどもたちと一緒に学んだ貴重な時間でした。

まず映像を観てもらい、毎日食品ロスが発生している現状を知つて、そもそも食品ロスって何だろう?どうすれば削減できるだろう?こどもたちからたくさんの言葉!!アイデアの種が生まれました。高松市での取組みについて、実態調査報告や食品ロス削減クイズを出題し理解度を確認。

お土産にお配りしたのは、前に焼き上げた手作りクッキー。「SDGs De ベジクッキー」です。普段は捨てられてしまふ野菜の皮や種を使つて、「食品ロス」削減をテーマに食材を無駄にしないレシピです。試行錯誤して完成させさせてくださつた皆様のご協力に感謝御礼!おうちに帰つて皆で食べてもらいたいと渡しました。子どもたちから、「おいしかった」との声も届きました。



アンケートには、「近くの集会所だったので歩いて参加できました。所だから、」「皆で話し合い、笑い、体を動かし、頭の体操をし、気分転換になつた。参加してよかったです」などの声がよせられました。コロナ禍で行動が制限され、ふれあいの機会も減っています。ご意見、社会状況などを参考に改良点もあります。

新しく生まれた事業「ふれあい・きいきサロン」をこれからも気ます。民生委員、福祉委員に相談している方もいます。また、お茶とお菓子での会話も大変楽しみにされています。



## 年賀状でふれあい

今年の元旦も、心のこもつた年賀状が、円座小学校の児童から円座地区の80歳以上の高齢者819人の方々に届けられました。新年のあいさつと新しい年に向けての目標・お年寄りを気づかう言葉をお正月らしいイラストと共に書か



受け取られた方々は「元気をもらいました」とか「気持ちが伝わりうれしかった」との感謝の言葉が書かれていました。また、週2日りハビリで体力維持に励んでいる満94歳の男性からは、「児童への感謝と励ましの言葉がづられたお手紙をいただきました」。

年賀状により、会つたことはなくとも同じ地区に住んでいる児童と高齢者の心がふれあうひとことです。

心温まり、明るい年の始まりを感じられる一役となれたことと思います。

